

地域の活性化のために 学校は地域がつながる拠点



会長◆小玉久視さん

中川地域運営体 平成23年度の事業概略

- 地域内環境整備事業
 - 地域案内標識板の新設
- 地域安心・安全対策事業
 - 災害発生時対策として
発電機の備え付け
※ 地域拠点施設(6ヵ所)
- 地域歴史文化の継承保存事業
 - 中川地区の歴史を調査・保
存する
- 地域の活性化事業
 - スポーツを通じた、子ども
と地域住民が交流するた
めの用具購入
 - 中川小学校の「三省まつり」
(学習発表会)にあわせて、
地域住民が多く参加でき
るような文化作品の展示会
の実施

さらに小玉会長は「運営体はやれること、みんなが参加できることからやっていく」と、無理をせずに活動している様子で、案内看板設置事業で地域の一体感に手応えを感じ、「今後は便りのようなものを発行して、運営体の動きをもっと知ってもらえればさらに良くなると思う」と、今後の取り組みを話してくれました。

今年四月に設立した中川地区運営体。会長を務める小玉久視さんは、高校卒業以来三十五年ぶりに地域に戻り、「自分が子ども頃は、小学校一クラス五十人くらいいたが、今は全校で五十人程度」と、児童数の減少をさみしく感じています。

少子化は時代の流れ。ならばと、積極的に子どもたちとふれ合う機会を小学校に相談。地域との交流を積極的に進めたい沢屋中川小学校長の想いと合致し、「三省まつり(学習発表会)にあわせて地域の文化祭を合同で行うことを企画しました。

「三省まつり」に多くの地元住民が参加しています。「小学校にある設備も開放してくれる。学校を核にして地域活動していきたい」と、学校との連携をさらに進めて、地域の活性化に取り組みます。

「赤そば」で元気づくり

活動八年目の角館そば生産組合(鈴木秀夫会長)では昨年から赤そばの栽培に取り組んでいます。品種は「高嶺ルビー」で、食用はもちろんですが、赤い花による景観の美しさで知られています。

組合事務局長の山本實さんは「手のかからない作物とはいえ、最近の悪天候には苦労している。赤そばの花が咲く畑を観ながら食べてもらいた



調べて学ぶ

歴史文化の継承保存事業で、中川の歴史を調査している田口武彦さん(写真右)と戸沢正隆さん。「地元にながら、わからなかった部分も出てくると思うので非常に楽しみにしている」と話し、郷土史の発行を3年計画で行っていきます。



角館そば生産組合
事務局長の山本實さん

いと、観光型の産業振興に期待を寄せています。

赤そばは普通のそばより手間ひまがかかり、収穫量も上がらない難しさがあり、種子も高いそうです。それでも山本さんは「赤そばを成功させ、将来的には特産品化し地域の元気づくりを目指したい」と力強く話し、組織の強化などが会長が先頭となって具体的に動き出しています。

地域の案内看板

環境整備事業として19ヵ所に設置した地域の案内看板が好評です。

現在地の地名のほかにも他地区の方向も記したおかげで、地元以外の方も迷わず移動できている模様です。地区の皆さんにとっても安心です。

